

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 9 月 27 日現在

機関番号：32665

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370115

研究課題名(和文)ニコライ・メトネルのピアノ・ソナタの批判校訂版楽譜の作成

研究課題名(英文) Making a critical edition of Nikolai Medtner's piano sonatas

## 研究代表者

高久 暁 (TAKAKU, Satoru)

日本大学・芸術学部・教授

研究者番号：20328769

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,300,000円

研究成果の概要(和文)：ロシア出身の作曲家・ピアニスト、ニコライ・メトネル(1880-1951)の作曲したピアノ・ソナタ(生前に出版された14曲、未出版・未完成の関連作品、スケッチ)について、批判校訂版楽譜の作成に向けた方法論を案出し、生前に出版された印刷楽譜すべて及びモスクワ・ロンドン・オタワにおけるメトネルに関連するアーカイブやコレクションに含まれる一次資料の調査に基づいて、メトネルの作品出版史上初めてとなるピアノ・ソナタの批判校訂版楽譜を作成した。楽譜には企図されたソナタのスケッチ1点以上、未完成のソナタ楽章2曲、未出版のソナタ楽章1曲、ソナチネ1曲、作曲者の生前に出版されたピアノ・ソナタ14曲が含まれる。

研究成果の概要(英文)：The researcher has made a critical edition of the complete piano sonatas (including unpublished and unfinished ones and sketches of projected piano sonata) of Russian-immigrated composer-pianist Nikolai Medtner(1880-1951) for the first time in the history of the publishing of Medtner's piano works. He conducted his editing work based on intensive and comprehensive researches on the primary sources such as Medtner's autographs, stichvorlages, proofs and personal copies in the archives in Moscow and Ottawa, as well as personal copies of British pianist Edna Iles, one of Medtner's most important disciple, and those of Quebecois composer-pianist Alfred Laliberte, a close friend of the composer and greatest champion of his music in the North American Continent. The new critical edition consists of, at a maximum, 1 or 2 fragments of projected piano sonata, 2 unfinished and 1 unpublished sonata movements, 1 sonatina and 14 piano sonatas from op.5 to op.56 published during Medtner's lifetime.

研究分野：音楽学

キーワード：ニコライ・メトネル 楽譜作成 ピアノ音楽 ロシア音楽

## 1. 研究開始当初の背景

2003年にニコライ・メトネルの主要作品のひとつ(忘れられた調べ 第1集) op.38の批判校訂版楽譜(付録として研究者の発見した世界初出版の異稿を収録)を出版した。この作業の過程で、またメトネル作品をさらに研究するうちに、エディション間に見られる楽譜テキストの不一致の原因の解明や解消に関心を持つようになった。そして、現在メトネル作品の権威あるエディションとされている、1959年から1963年にかけて旧ソビエトで出版された「メトネル作品全集」について、編集上の問題点を認識するに至った。このような背景から、メトネルのピアノ作品について新たな批判校訂版楽譜の作成を企図した。

## 2. 研究の目的

この数十年間で再評価の進んだロシア出身の作曲家・ピアニスト、ニコライ・メトネルの主要作品ジャンルであるピアノ・ソナタについて、楽譜出版に関する調査を行い、初版楽譜、改訂版楽譜、作曲者の自筆譜・スケッチ、校正刷、私家版楽譜、作曲者の弟子や友人の持っていた私家版楽譜等の精査と分析的検討を実施することで、新たな批判校訂版楽譜を作成する。

## 3. 研究の方法

### (1) 印刷楽譜の調査

#### 印刷楽譜の種数の確定

メトネル作品の印刷楽譜は初版譜と再版譜以降の出版楽譜でしばしば楽譜テキストが異なっている。メトネルの各作品について、どれだけの異なる楽譜が出版されたかについて調査を行い、楽譜の現物を閲覧・入手するように努めた。

#### 旧ソビエトで楽譜が再版された作品の確定と楽譜テキストの異同の調査

1920年代以降の旧ソビエトにおいて、メトネル作品の再出版が作曲者の関与なしに行われたが、その実態は知られていなかった。特に1920年代から1930年代にかけて旧ソビエトで再出版された作品(op.1からop.37まで)を確定させるための調査を行った。

の作業を介して判明したピアノ・ソナタのすべてのエディション、初版楽譜、「作品全集」における楽譜テキストを比較検討した。

### (2) 一次資料の調査

メトネルのピアノ・ソナタについて、楽譜作成の観点から重要と見られるスケッチ、自筆譜、校正刷、メトネルの持っていた私家版楽譜の調査と分析的検討を行った。

北米大陸におけるメトネルの最大の支持者であったケベックのピアニスト・作曲家、アルフレッド・ラリベルテ Alfred Laliberté の私家版楽譜、メトネルの弟子・支援者だったイギリスのピアニスト、エドナ・アイルズ Edna Iles の私家版楽譜には、メトネルによってさまざまな書き込みがなされている。これらの楽譜の調査と分析的検討を行った。

### (3) 批判校訂版楽譜の作成

(1)及び(2)から得られた知見に基づき、ピアノ・ソナタの批判校訂版楽譜作成の底本となる資料を選択し、校訂報告と楽譜テキストを作成した。作業の際にはメトネルの作曲プロセスを十分意識し、(高久 2013)(次節(1)参照)におい

て結論とした、校訂楽譜作成方法の有効性を検証しながら作業を行うようにした。

### (4) 調査を実施した施設

次の施設で(1)と(2)の調査を実施した。

・**ロシア**: 全ロシアグリーンカ音楽文化博物館コンサートシム(以下 GNMC)、ロシア国立文学・芸術アーカイヴ(以下 RGALI、モスクワ)、ロシア国立図書館(モスクワ、サンクトペテルブルグ)

・**カナダ**: 国立カナダ図書館・アーカイヴズ(オタワ)

・**アメリカ**: アメリカ議会図書館(ワシントン DC)

・**イギリス**: 大英図書館(ロンドン)

調査を予定していたモスクワ音楽院の図書館は、調査期間中に長期の改修工事に入ってしまったため、調査を断念せざるを得なかった。

## 4. 研究成果

関連資料をほぼすべて検証したうえで、ピアノ音楽の重要なレパートリーとなりつつあるメトネルのピアノ・ソナタについて、世界に先駆けて新たな批判校訂版楽譜を作成することができた。副次的に得られた成果とともに、今後のメトネル研究、20世紀におけるロシア亡命移住音楽家研究の基礎的部分に貢献しうると考える。

### (1) 以下の本文で使用する略号

#### アーカイヴの略号と資料の名称

・**GNMC**: 所蔵資料は、アーカイヴ番号(F.)と資料番号(No.)で示される。メトネルのアーカイヴ番号はF.132である。

・**RGALI**: 所蔵資料はアーカイヴ番号(F)、目録番号(op.)、資料番号(No.)で示される。

・**FAL**: 国立カナダ図書館・アーカイヴズ所蔵のアルフレッド・ラリベルテ・アーカイヴ。

・**AL**: FAL所蔵のアルフレッド・ラリベルテ旧蔵の私家版楽譜。

・**EI**: エドナ・アイルズ旧蔵の私家版楽譜(大英図書館、エドナ・アイルズ・コレクション所蔵)。

・**CE**: 旧ソビエトで1959年から1963年にかけて出版された(ニコライ・メトネル作品全集)。

・**PC**: メトネル自身が所持し、書き込みを行った私家版楽譜。F.132所蔵。

・**FE**: 初版楽譜(First edition)。

・**RE**: 改訂版楽譜(Revised edition)。

・**PF**: 校正刷(Proofs)。

#### 文献の名称

(Flamm 1995): Christoph Flamm, *Der Russische Komponist Nikolaj Metner*, Verlag Ernst Kuhn, Berlin, 1995

(高久 2013): 高久 暁、ニコライ・メトネルの作品の校訂: 問題点・原理・方法、日本大学芸術学部紀要第57号、p.50-62, 2013年3月。

### (2) 印刷楽譜の調査に関する研究成果

研究期間中の調査を通じて、メトネルの全作品の印刷楽譜の種数とそれらの楽譜テキストの異同について、ほぼ確定的な見通しが立つようになった。また、主にロシアでの調査を通じて、1920年代以降に旧ソビエトで再出版されたメトネル作品の全容をほぼ把握できるようになった。この結果、出版が計画されたものの、ほぼ確実に再出版が行われなかった作品の存在が判明した。ピアノ曲では(ピアノ・ソナタ)へ短調 op.5、

(ピアノ・ソナタ)ホ短調 op.25-2、(4つの抒情的断片)op.23の第2~4曲、ヴァイオリン曲(3つの夜の歌)op.16と(ヴァイオリン・ソナタ第1番)op.21)、歌曲(「ニーチェの3つの詩」op.19、(「ニーチェの2つの詩」op.19aほか)などである。

### (3)批判校訂版楽譜に関する研究成果

調査対象としたメネルのピアノ・ソナタは、出版作品だけでなく、スケッチや未出版作品や未完成作品にまで範囲が広がられた。以下、各ソナタについて、調査した資料の番号、調査項目、資料から得られた所見、楽譜作成の指針などを簡潔に記すものとする。

#### ソナタ主題 ヘ短調

**自筆譜**:F.132, No.4586. **成立**:不詳。

ソナタの第一主題のスケッチ(4/4, 29小節、最終小節未完)。様式的見地から10代終わりから20代初めごろの作曲と考えられる。

#### ソナタ 口短調/ソナタ 八短調

**自筆譜**:F.132, No.184. **成立**:1901年。

(Flamm 1995)p.567 2.49において独立した作品として記載されているが、実際には前者は、後者はのスケッチである。出版は考慮されない。

#### ソナタ 変口短調

**自筆譜**:F.132, No.42. **成立**:1909年夏。

「ソナタ」と題された断片的なスケッチである。

#### ソナタ ソナタふう幻想曲 嬰ヘ短調

**第1楽章**:Allegro, 2/2, 嬰ヘ短調, 106小節。

**フィナーレ**:Finale, 4/4, イ長調, 22小節。

**自筆譜**:F.132, No.1797. **成立**:1897年夏。

未完成。第1楽章は提示部と展開部の途中まで、フィナーレは提示部の一部が作曲されている。2種類の草稿から楽譜テキストを確定させることが可能であり、さらに休符や音の補充などの補筆を行うことにより、出版可能な状態とした。

#### ソナタ 八短調

Allegro moderato, 4/4, 140小節。

**自筆譜**:F.132, No.12. **成立**:1901年夏。

未完成。提示部の全体と展開部の途中までが作曲されている。休符や音の補充など最小限の補筆を行うことにより、出版可能な状態とした。

#### ソナタ 口短調

Allegro, 4/4, 331小節。

**自筆譜**:F.132, No.68. **成立**:不詳。様式的見地から10代後半。

未出版。改作が放棄された状態にある。最小限の編集作業で出版可能な状態とした。

#### ソナティナ Sonatina ト短調

**第1楽章**:Allegretto, ma non troppo, 4/4, ト短調, 60小節。

**第2楽章**:Scherzo, 3/4, ト短調, 303小節。

**自筆譜**:F.132, No.11. **成立**:1898年。

**出版**:1981年にモスクワのムジカ Myzika 社からヨルダンI. IordanとキルコラG. Kirkoraの編集で出版。出版番号11316。この出版楽譜の記載は(Flamm 1995)にはない。

自筆譜の調査から、出版譜には編集の不備や誤植が発見された。新エディションではこれらの問題を解消させた。

#### ソナタ ヘ短調 op.5

**第1楽章** Allegro, 4/4, ヘ短調, 246小節。

**第2楽章** Intermezzo, 2/2, 八短調, 135小節。

**第3楽章** Largo divoto, 3/4, 変ホ長調, 89小節。

**第4楽章** Finale, Allegro risoluto, 2/4, ヘ短調, 431小節。

**成立**:1903年までに全楽章が完成。

**自筆譜**:不明。出版:初版はライプツィヒのベライエフ社 Belaieff 社から1904年に出版(FE)、1955年に改訂版が出版された(RV)。

**私家版楽譜**:F.132, No.3957. 底本はFE。

ソビエトにおける再出版:なし。

**備考**:第2楽章 Intermezzo は1896年3月に完成した(楽興の時 No.2) Moment musical No.2の改作である(F.132, No.7)。

改訂版出版に至る経過は明らかではない。内容的に同一であるべきPC、RE、CEの3つの版に多くの差異が認められた。新エディションでは底本をPCに求め、副次的参照資料をREとする。

#### ~ ソナタ三部作 op.11

##### ソナタ 変イ長調 op.11-1

Allegro non troppo, 4/4, 221小節。

**成立**:1901年作曲開始、04年再開、06年完成。

**自筆譜**:RGALI, F.952, op.1, Nr.438(版刻用自筆譜)。

**校正刷**:F.132, No.33. 初校にインクによる大量の修正がある。「1906年9月22日」の日付の出版社のスタンプが押されている。

**出版**:初版(FE)は1906年にP.I.ユルゲンソン社 P.I.Jurgenson から出版、のちに「新改訂版 Neue rividierte Ausgabe」が出版された(RE)。

**ソビエトにおける再出版**:1922年と1926年に出版された。FEに新たな出版番号を付けて出版。1926年版には第180~184小節の上段に1922年版にはないスラーが付されている。出版社による恣意的な付加と見られる。

**私家版楽譜**:F.132, No.3958. 底本はFE。

メネルは校正の際に大量かつ詳細な修正を行ったため、PFからPCに至る諸資料に異同が多くなった。新エディションはPCを底本とし、副次資料として自筆譜、校正刷、REを参照した。

##### ソナタ 二短調「エレジー」 op.11-2

Andante molto espressivo - Coda. Allegro molto (doppio movimento), 4/4, 114小節。

**成立**:1904年から06年秋。

**自筆譜**:RGALI, F.952, op.1, Nr.436(版刻用自筆譜)。

**校正刷**:F.132, No.35. 初校にインクによる修正。「1907年1月29日」の日付を持つ出版社のスタンプが押されている。(Flamm 1995), p.384では、誤ってこの校正刷が(ソナタ三部作)の第3曲 op.11-3とされて掲載されている。

**出版**:初版は1907年にP.I.ユルゲンソン社から出版(FE)、のちに「新改訂版 Neue rividierte Ausgabe」が出版された(RE)。

**ソビエトにおける再出版**:1922年と1926年。FEに新たな出版番号を付して出版された。両者の楽譜テキストは同一である。

**私家版楽譜**:F.132, No.3958. 底本はFE。

新エディションはPCを底本とし、副次的資料として版刻用自筆譜、校正刷、REを参照した。

### ソナタ 八長調 op.11-3

Moderato, con passione innocente, 2/4, 241 小節。

**成立**: 1901 年作曲開始、1904 年に再開、1907 年までに完成。

**自筆譜**: RGALI, F.952, op.1, Nr.444(版刻用自筆譜)。

**出版**: 1908 年に P.I.ユルゲンソン社から出版された(FE)。

ソビエトにおける出版: 1922 年と 1926 年。FE に新たな出版番号を付して出版。二つの版の楽譜テキストは同一である。

**私家版楽譜**: F.132, No.3958. 底本は FE。

**備考**: F.132 に「取るに足らない差」( (Flamm 1995), p.384) を持つ自筆譜が存在するが (No.36) 未見。RGALI 所蔵の版刻用自筆譜の前段階に相当する自筆譜と推定できる。

第3曲は改訂版が出版されなかったと見られる。新エディションは PC を底本に取り、副次的な参照資料に版刻用自筆譜を用いる。

### ソナタ ト短調 op.22

Tenebroso, sempre affrettando - Allegro assai - Interludium. Andante lugubre - Allegro assai. 4/4, 424 小節。

**成立**: 1909 年末から 1910 年にかけて完成。

**自筆譜**: F.132, No.46.版刻用自筆譜の前段階に相当する自筆譜と見られる。

**出版譜**: 初版楽譜 (FE) はロシア音楽出版社 Russischer Musikverlag から 1910 年出版、のちに改訂版が刊行 (RE)。この出版社の楽譜の通例として、FE と RE の差異は明示されない。

**私家版楽譜**: F.132, No.3959. 底本は RE。

CE には PC の書き込みが十分に反映されている。AL は訂正の書き込みが少ないが、EI は大量の書き込みがなされていて判読困難である。新エディションは PC を底本とし、副次的な参照資料として AL と EI を用いる。

### ソナタ おとぎ話 op.25-1

**第1楽章**: Allegro abbandonamente 4/4, 八短調, 114 小節

**第2楽章**: Andantino con moto, 3/4, 変ホ長調, 83 小節

**第3楽章**: Allegro con spirito, 5/2, 八短調, 74 小節

**成立**: 1910 年から 11 年にかけての冬。

**自筆譜**: 不明。

**校正刷**: F.132, No.52. 初校。ベルリンの楽譜製版商レーダー C.G.Röder の「1/7, II」(恐らく [19]11 年 7 月 1 日) のスタンプが押されている。出版: 1911 年にロシア音楽出版社より出版 (FE)。改訂版の出版はなかったと見られる。

ソビエトにおける再出版: 1925 年。楽譜テキストは FE と同一であり、新たな出版番号が付された。この楽譜はウィーンのユニヴェルザル・エディツィオン Universal Edition のスタンプが押されて同社の出版楽譜としても流通した。

**私家版楽譜**: F.132, No.3960. 底本は FE。

PF での修正と PC の書き込みは内容的によく符合する。新エディションでは PC を底本とし、副次的参照資料を PF とした。

### ソナタ ホ短調 op.25-2

Introduzione. Andante - Allegro - Tempo dell'introduzione - Allegro molto sfrenatamente - Largamente - Tenebroso, 15/8 - 4/4, 723 小節。

**成立**: 自筆譜には「1911 年 12 月 21 日」と記されている。後半は 1901 年ごろ開始、1910 年冬から 1912 年初めに作曲。前半は 1910 年冬から 1912 年初めにかけて作曲。

**自筆譜**: F.132, No.53. 版刻用自筆譜の前段階に相当する自筆譜と考えられる。

**出版**: 1912 年、ロシア音楽出版社 (FE)。のちに改訂版が出版 (RE)。この出版社の楽譜の通例として、FE と RE の差異は明示されない。

ソビエトにおける再出版: ほぼ確実になし。

**私家版楽譜**: F.132, No.3960. 底本は RE。

モットーとして掲げられた 19 世紀ロシアの詩人 チュッチェフ Tyutchev の詩の第 1 行の詩句から、このソナタは「夜の風

」と通称されている。CE では RE の修正の一部が欠落している。また、PC の表紙裏には詩の英訳と仏訳が書かれ、楽譜第一頁の余白にソナタの性格や解釈の指針を示唆する多数の書き込みが見られるが、CE ではその一部が反映されているに過ぎない。新エディションは底本を CP とし、できる限りすべての書き込みを紹介・解説する。

### ソナタ・バラード 嬰へ長調

**第1楽章**: Allegretto, 6/8. 嬰へ長調 296 小節。

**第2楽章**: Introduzione e Finale

Introduzione: Mesto, 4/4. 嬰へ短調, 68 小節。

Finale: Allegro, 2/4, 嬰へ長調, 373 小節。

**成立**: 第1楽章は 1912 年、第2楽章は 1914 年初めまでに作曲。

**自筆譜**: 不明。

**出版楽譜**: 第1楽章はロシア音楽出版社から 1913 年出版 (FE)、第2楽章を伴う全曲版は 1914 年出版 (FE2)、全曲版の第1楽章には FE と改訂版 (RE) の 2 種が確認される。この出版社の楽譜の通例として、エディション間の差異は明示されない。

**ソビエトにおける再出版**: 1927 年。楽譜テキストは FE2 と同一。新しい出版番号が付加された。

**校正刷**: F.132, No.1280. 底本は RE。この資料は (Flamm 1995) には記載されていない。

**私家版楽譜**: F.132, No.3960. 底本は FE2。

第2楽章の改訂版は恐らく出版されなかった。PF と PC の底本となった第1楽章の楽譜は異なり、修正内容も異なる。CE は PC に基づいているが、宗教的コンテクストを示唆する書き込みは省かれている。EI には、PC の一部の書き込みの英訳が記入されている。新エディションの底本は PF に取り、PC から宗教的コンテクストを持つ書き込みを取り入れる。その英訳は EI を用いた。

### ソナタ イ短調 op.30

Allegro risoluto - Coda. Allegro molto, 3/4, 610 小節。 **自筆譜**: 不明。

**成立**: 1914 年ごろから作曲、1917 年完成。

**出版**: 1917 年、ロシア音楽出版社 (FE)。1922 年にシュナイダー F.H.Schneider の編集による RE が出版され、主に西側諸国で流通した。

ソビエトにおける再出版:1922年と1930年。FEに新たな出版番号が付加されている。

**備考:**(Flamm 1995)p.452には、自筆譜の項にロシアのピアニスト、マリア・ヴェニアノヴナ・ユージナ Maria Venianovna Yudinaのアーカイヴ所蔵の楽譜(F.439, No.296a)が記載されているが、この楽譜はユージナ自身の私家版楽譜(FE)であり、メネルの関与や書き込みは認められない。

**私家版楽譜:**F.132, No.3960。底本はFE。

REにはFE出版後にメネルが出版社に求めたであろう修正の反映が認められるが、作曲者の記譜法の特徴を無視した编者独自の表記が多数含まれている。ユージナとメネルの関わりについては別に調査が行われるべきである。PCの第2主題の旋律(第62~70小節)に、メネルによる「

Р о с с и и с ч а с т я

!」(主よ、ロシアに平和を与え

たまえ)の書き込みが発見された。ALとEIには存在しないこの書き込みは、第2主題に平和への祈りが暗示されていることを意味する。新エディションはPCを底本とするが、慎重な検討のもとでREの長所をも取り入れる。

#### **(忘れられた調べ 第1集) op.38 第1曲 (回想ソナタ) イ短調 op.38-1**

Sonata reminiscenza : Allegretto tranquillo - Svegliando-Tempo I, 2/4, 430小節

**自筆譜:**FALにアンナ・メネルが主に作成し、メネルが修正を施した手稿譜がある。版刻用自筆譜の前段階のものと思われる。

**成立:**1920年までに完成。

**出版:**ライプツィヒのヴィルヘルム・ツィンマーマン社 Wilhelm Zimmermann(以下ツィンマーマン)から1922年に単曲のピース形式と合本の形態で出版(FE)。のちに誤植が訂正された改訂版が出版された(RE)。

**私家版楽譜:**F.132, No.3963。底本はFE。

筆者は主にFALの自筆譜とREに基づいて、2003年に(株)全音楽譜出版社から(忘れられた調べ 第1集)op.38の出版を行った。新エディションでは全音版に取り込めなかったPCやEIの書き込みの内容を反映させた。

#### **(忘れられた調べ 第2集) op.39-4 (朝の歌) ト長調 + (悲劇的ソナタ) op.39-5 八短調**

Canzona mattinata Allegretto cantando, 4/4, 101小節

Sonata tragica Allegro risoluto-Coda: Allegro assai, 4/4, 305小節

**成立:**1920年までに完成。

**自筆譜:**不明。(Flamm 1995), p.480には、RGALIにop.39の自筆譜が所蔵番号F.952, op.1, No.432として所蔵されているとの記載があるが、これは誤りである。この番号の資料は実際には(ピアノ協奏曲)第1番op.33のオーケストラ部分のピアノ・リダクションの自筆譜だった。フラムが書誌情報だけに基いて記載を行ったこと、No.432のファイルの表紙にop.39と誤記されていることが誤謬の原因である。

**出版:**1923年にツィンマーマン社から単曲のピースと全曲の合本の2形態で出版された(FE)。

改訂版の出版はなかったと考えられる。

**私家版楽譜:**F.132, No.3963。底本はFE。

これら2曲は通奏されるため、新エディションでも2曲を収録する。新エディションの底本はPCとし、必要に応じてEIを参照する。

#### **ソナタ・ロマンティカ Sonata romantica op.53-1 変ロ短調**

**第1楽章:**Romanza, Andantino con moto, ma sempre espressivo, 4/4, 変ロ短調, 115小節

**第2楽章:**Scherzo, Allegro-Presto leggiero, 3/4, 変ホ短調, 265小節

**第3楽章:**Meditazione, Andante con moto, 9/8, ロ短調, 59小節

**第4楽章:**Finale, Allegro non troppo -Coda. L'istesso tempo, 3/4, 変ロ短調, 231小節

**成立:**第1楽章の構想は恐らく第1次世界大戦以前、全曲の完成は1931年。

**自筆譜:**FAL(版刻用自筆譜)。

**出版:**ツィンマーマン社から1932年出版(FE)。実際にはロシア出身の作曲家ユーリー・コニユス Yuly Konyus が個人的に出版した。再版に際して判型が小さくなり、第3頁に印刷されていたメネルの肖像スケッチが省かれ、顔の部分だけが中表紙のタイトル下に印刷されるようになった。楽譜テキストはFEと同一である。

**私家版楽譜:**F.132, No.3970。底本はFE。

FALには他に版刻用自筆譜の前段階の自筆譜、下書き、スケッチがある。ユルゲンソン社製の五線紙に書かれた第1楽章冒頭の下書きは「Sonatina」と題され、第1楽章の着想がメネルの若い時期になされたことを示唆している。PCの修正はCEによく反映されているが、CEの第4楽章126小節目上段第2拍目には重大な誤植が見られる。新エディションはPCを底本とし、必要に応じてFEを参照する。

#### **ソナタ・ミナチオーザ ヘ短調 op.53-2**

Allegro sostenuto-Coda, 3/4, 448小節

**成立:**1932年

**自筆譜:**FAL(版刻用自筆譜)

**出版:**ツィンマーマン社から1933年に(ソナタ・オラージュ Sonata orangeuse)のタイトルで出版(FE)。これもコニユスによる出版である。再版の際に(ソナタ・ミナチオーザ Sonata minacciosa)にタイトルを変更して出版、再版に際しての判型やイラストの扱いはop.53-1と同様である。楽譜テキストはFEと同一である。

**私家版楽譜:**F.132, No.3970。底本はFE。

PCにはメネルがこのソナタを録音して各セクションの演奏の所要時間を計測したことを示す記号と演奏所要時間が記入されていた。メネルがこのソナタの録音を行ったことは従来知られていないため、録音資料の発見が期待される。また、PCにはこのソナタで頻出する「8分音符+8分休符+16分音符」のモチーフの「16分音符」とそれに対する「6連符」の合わせ方が書き込まれている。新エディションはCPを底本とし、必要に応じてFEを参照する。

#### **②ソナタ イディール Sonata idylle ト長調 op.56**

**第1楽章** Pastorale, Allegretto cantabile, 3/4,

ト長調, 140 小節

**第2楽章** Allegro moderato e cantabile, 2/4, ト長調, 273 小節。

**成立**: 第1楽章は1934年から1936年、第2楽章の着想は恐らく1900年代、1938年完成。

**自筆譜**: 不明。

**出版譜**: ロンドンのノヴェロ Novello 社から1938年に出版(FE)。改訂譜の出版はなかったと考えられる。

**私家版楽譜**: F.132, No.3970.底本は FE。

大英図書館にはノヴェロ社の所有していた版刻用自筆譜のコレクションがあるが、このソナタの資料は見出せない。FALには、第1楽章冒頭部分の断片的なスケッチ a、第2楽章冒頭部分に相当する「Sonatina」と題されたスケッチ b、鉛筆で書かれた第2楽章全体の下書き c、第2楽章のスケッチ d の4種類の資料がある。aとcから、このソナタが1933年に4集8曲が出版された(若者のためのロマンティックなスケッチ) op.54の続編(第5集)として、次いで op.55-2として構想されたことが判明する。bの紙質は op.53-1と同じであり、成立は初期にさかのぼると見られる。(高久 2013)p.56では、PCに第1楽章再現部、第85小節下段に「#」が付加されていることを指摘したが、今回の調査で再度 PC を詳細に検討した結果、付加された記号は「#」でも「q」でもない形状の記号であり、CEの編者はこの記号を意味不明として省いた可能性が考えられた。EIではこの音は修正されていない。一連の経緯はメトネルの着想のゆらぎの反映と考えられ、校訂報告で解説を行う。新エディションの底本は PC とし、EIを副次的参照資料とする。

#### (4) まとめにかえて 課題と展望

##### (高久 2013)で提案された校訂方法の検証

当該論文では、メトネル作品の批判校訂版楽譜の作成には、PC、EI、ALを相互参照的に源泉資料として用いることを提案した。それは誤りではなかったが、PCの情報量が極めて多いため、PCを主要な底本としてEIとALを補助的に使用することが最も望ましいことが判明した。

##### 未見資料の調査

未訪問施設や若干の未見資料が残された。楽譜作成に本質的な影響を与えるものではないが、機会を改めて調査を実施したい。

##### 未完成作品と未出版作品の重点的調査

断片や未出版作品の調査から、メトネルが10代後半の時点で十分に熟達した作曲を行っていたことが判明した。メトネルの未完成作品や未出版作品の研究は、メトネル音楽のより深い理解を促すと考えられる。今後の研究課題としたい。

##### フラム文献の修正と「メトネル一次資料所在カタログ」の作成

(Flamm 1995)は現在もメトネル研究における最大の基本文献であるが、今回の調査で誤りや資料の見落としが発見された。フラムの研究ではGMNCF.132のPCは捨象され、RGALIやALFなど、F.132以外のメトネルの一次資料も調査しなかった。フラムの書籍に情報を修正・付加するかたちで、欧米ロシアに散在するメトネルの一次資料が網羅的に記載されたメトネルの一次資料

カタログを作成する必要が求められる。

##### F.132におけるメトネル夫妻の書簡類の再調査と「メトネル書簡・データベース作成プロジェクト」の推進

今回の研究では楽譜の校訂作業と作成に焦点を当て、書簡は研究対象としなかった。しかしF.132の書簡の所蔵カードを閲覧する機会を得て、従来公表されてきたメトネル夫妻の書簡が、そのごく一部に過ぎなかったことが判明した。

(高久 2013) p.50-51ですでに概略を指摘したが、現在のメトネル受容はメトネルの没後アンナ・メトネルが築き上げた線に沿うものである。1951年にメトネルが没したあと、アンナはその書簡をアメリカ(アメリカ議会図書館)とソビエトへ自ら持ち帰った分に意図的に分配し、議会図書館に収められたメトネルの兄エミールとメトネル夫妻の間で交わされた書簡は1985年まで閲覧不可の指定を行った。アンナは1950年代の東西対立の政治状況のもと、第三者によるメトネルの全体像の構築が意図的に困難になるように仕向けたようにも感じられる。

F.132にはアンナ・メトネル宛の書簡が所蔵され、その中にはメトネルの没した1951年以降の来信が数十通存在する。従来顧みられていないこれらの書簡を検討し、1951年以降のアンナ・メトネルの行動や考え方を調査する必要があると思われる。

また、メトネル夫妻の書簡調査は、大英図書館のエドナ・アイルズ・コレクションほか、アメリカ議会図書館所蔵のメトネル・コレクション、ヴァージニア大学 Virginia Universityにあるメトネルの友人で協力者の音楽学者・作曲家アルフレッド・スワン Alfred Swanのアーカイブ、AFL、ツィンマーマン社のアーカイブほか、欧米各地の機関や施設を対象とすべきである。一次資料と同様、やはり欧米ロシアに散在する書簡類の所蔵情報と内容をデータベースとして集成し、ウェブで閲覧・活用できるようにする「メトネル書簡・データベース作成プロジェクト」が、世界のメトネル研究者たちの共同作業によって推進される必要性を指摘したい。

##### 5. 主な研究論文等

(雑誌論文)(計1件)

高久 暁、国際メトネル音楽祭、月刊ショパン、33巻第3号(2016年3月号)、p.35、単独、査読無

(学会発表)(計1件)

TAKAKU, Satoru Making critical editions of Medtner's piano music : Problems and a possible solution, International Medtner Festival RMA Study Day Revealing Medtner: Emerging Research and Repertoire, 2016年1月29日, The British Library, ロンドン(イギリス)、単独

##### 6. 研究組織

(1)研究代表者

高久 暁(TAKAKU, Satoru)

日本大学・芸術学部・教授

研究者番号:20328769